

事業報告書（令和6年度）

事業名 私たちはどこから来て、どこに向かうのだろう

団体名 ESD・SDGsから地域の未来を考える会

担当者名 岩堂 秀明

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

(1) 岡山市立角山小学校（ユネスコスクール指定校）

① 主題：地域の歴史講話と ESD・SDGs ②日時：4月25日（木）、5月13日（月）、5月21日（火）
③場所：竹原神社、小鳥の森、岡山市立角山小学校 ④参加者：4/25（全校児童約40名）5/13・21（3・4年生8名） ⑤内容 ESD・SDGsから地域の未来を考える会副代表の吉田誠が岡山市立角山小学校（ユネスコスクール指定校）において、地域の偉人 矢野恒太、地域の歴史等について、ESD・SDGsの観点から講話する。⑥評価：児童は、講話から矢野恒太氏のこと分かり、地域に対する誇りや愛着が生まれたようである。低学年に対しても分かり易い説明をすることができた（教員の評価）。しかし、児童の質問等は昨年と比較して少なく、より深い学び（批判的思考）には課題が残った。



左写真：5/21：3・4年生（8名）竹原神社及び馬路山明王寺の由来について現地見学（総合的な学習の時間）

SDGs：4 質の高い教育をみんなに、11 住み続けられるまちづくりを

矢野恒太：上道郡角山村（現岡山市）に生まれる。日本生命に医員（診査医）として就職後、共済生命設立に参加、同社総支配役に就任。のち農商務省に勤務し、保険業法を起草する。また同省商工局保険課の初代課長に就任。また、第一生命保険の創設者であり、生命保険事業の発展に偉大な功績を残すとともに、統計の普及、公衆衛生や社会教育の向上、農業の振興など各方面において多大に貢献した。（公益財団法人矢野恒太記念会HPから抜粋）

(2) 岡山市立御休小学校（ユネスコスクール指定校）

①主題：「心の病と ESD・SDGs」②日時：5月15日（水）12:00～14:00 ③場所：岡山市立御休小学校 ④参加者：御休小学校 PTA、教員、本会会員等 30 名 ⑤内容：川崎医療福祉大学 田淵泰子 氏から保護者として知っておくべき精神疾患と ESD・SDGs について学ぶ。⑥評価：20 数名の保護者参加があり、心の病について自分自身や保護者としての認識が高まった。また、積極的な質問（子どもに対する接し方等）もあり、講演は充実したものであった。学校長が積極的に ESD・SDGs や地域との連携に力を注いでおり、交流が今後進んでいくと期待される。



左…田淵氏講演会
(図書室)において



七月、校名由来の明治
天皇の巡行時使われ
た机のカバーを寄贈

SDGs : 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを

(3) 岡山市東部リサイクルセンター及び東部リサイクルプラザ見学

①主題：リサイクルの実態調査 ②日時：7月8日(月) ③場所：岡山市東部リサイクルセンター及び東部リサイクルプラザ④参加者 10名 ⑤内容：収集されたゴミや資源ゴミ等の処理や、環境問題、地球温暖化等について岡山市東部リサイクルセンター及び東部リサイクルプラザ見学から学ぶ。身近にリサイクルセンター等があり実際に訪問し担当者(行政)の説明は分かりやすく、自分事として捉えることができた。SDGs 目標12「つくる責任、つかう責任」は、限りある地球の資源を守るため、持続可能な生産と消費のバランスを形成することを示した目標であり、ゴミ処理やリサイクルのあり方について考えさせられる見学であった。また、現在は多くの物を過剰に生産し、消費し、最終的には不要になったものをどんどん廃棄することに違和感を感じなくなっている。「つくる責任、使う責任」や「エネルギー資源の枯渇」や「食品ロス」、「行き過ぎた商業主義」などについて、真剣に考えなければならない。



左：施設全容等について見学風景及
右：参加者写真

(SDGs : 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任、つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう)

(4) 共生社会と様々な事象について

①主題：共生社会についての研修 ②日時：8月23日(金)10:00~12:00 ③場所：岡山市立上道公民館 ④参加者 8名 ⑤内容：本会 橋本芳樹 を講師として、共生社会とは、その実現に向けて基本的な知識等について学ぶ。⑥評価：共生社会の基本について学んだ。地域社会には、様々な状

況や状態にあったりする人々（障害のある人、LGBTQ、社会的な弱者の人等）がいるが、皆が分け隔てなく自己実現を目指すことが出来、支え合うことのできる地域社会に目を向ける必要についてその基本的な知識について学んだ。有意義な研修会であった。



（SDG s : 4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の
不平等をなくそう 11 住み続けられるま
ちづくりを） SDGs 目標 12「つくる責任、
つかう責任

左写真：研修の参加者

（5）共生社会・多様性について

①主題：性的マイノリティ (LGBTQ) について ②日時：9 月 27 日 (金) 10 : 00 ~ 12 : 00 ③場所：岡山市立上道公民館 ④参加者 10 名 ⑤内容：当事者団体「プライド岡山」事務局長 八田凜子 氏を講師に LGBTQ や多様性について学ぶ。⑥評価：当事者団体事務局の八田氏 (当事者ではない) が LGBTQ の厳しい偏見や差別の現状について学ぶ。時代の変遷から、数十年前と現在ではこの問題に対する価値観が大きく変わり、多くの高齢者にとっては「すり込み」からの脱皮は大変難しいものがある。しかし、その偏見や差別意識をなくすための研修は続けなければならないことが分かった。当事者団体からの話は大変迫力があつた。



左写真：研修の参加者が車座になり懇談を行う。

（SDG s : 4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の
不平等をなくそう 11 住み続けられるま
ちづくりを）

（6）中国五県退職校長会山口大会で発表

①主題：ESD・SDG s について ②日時：10 月 17・18 日 (金) ③場所：山口市 ④参加者：中国五県退職校長会（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）代表者等約 80 名 ⑤内容：ESD・SDG s についての本会の取り組みについて、本会代表岩堂秀明が発表した。⑥評価：高齢者が社会から離脱するのではなく積極的かつ主体的に取り組んでいることに対する評価は高かった。各県を代表した小・中・高・特別支援学校退職校長会からの参加であるが、ESD・SDG s の理解や実践については温度差を感じた。



左写真：全体会の様子

(SDG s 及び ESD すべてに関連した内容)



右写真：(7) 橋本拓治氏の研修の様子

(7) 持続可能な町内会と ESD・SDG s について

①主題：子どもたち目線の町内会活性化 ②日時：10 月 25 日(金) 10:00~11:30 ③場所：岡山市立上道公民館 ④参加者：10 名

⑤内容：持続可能な町内会のため小中高生の主体的参加のハロウィーンの取り組みについて、岡山大学 橋本拓治氏 の講話から学ぶ。⑥評価：当該町内会での取り組みであるが、全市的な人口比、限界集落の町内会の課題等にも触れた講話であり、分かりやすかった。ポスター作成、仮装コンクール等の取り組みが印象的であった。これから益々高齢者が増加し若者が減少し町内会そのものが消滅の危機にある現状から、若者が参加する持続可能な町内会についての提言でもあり、大変有意義であった。

(SDG s : 11 住み続けられるまちづくりを)

(8) 精神科医による中年期～高齢者の疾患について

①主題：高齢者の精神疾患・認知症 ②日時：11 月 10 日(日) 10:00~11:30 ③場所：岡山市立上道公民館 ④参加者：約 70 名 ⑤内容：医療法人勲友会味野医院 院長 吉村優作氏から精神疾患の予防と対応(ストレス反応、良い眠り、不安障害、うつ病、マインドフルネス、認知症等)について学ぶ。⑥評価：高齢者の参加がほとんどであった。昨年に引き続いた研修であり、「認知症」を主題に置いたため、多くの参加があった。多くが自分や家族のこととして学ぶことが出来た。アンケートでは「よく分かった、生活習慣の見直しの重要性、マインドフルネスの実践をしたい、不眠・認知症がためになった、さらにもっと詳しく聞きたい」があり、参加者にとって大変有意義であったと評価される。ただ、ESD・SDG s についての啓発は資料の配付、説明をしたが、課題が残り不十分であった。



吉村優作氏の研修の様子

(SDGs : 3 すべての人に健康と福祉を、
4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー
平等を実現しよう、11 住み続けられるま
ちづくりを)

(9) ハンセン病国立療養所長島光明園現地視察

① 主題 : 「ハンセン病と ESD・SDGs」 ② 日時 : 11 月 29 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 30

③ 場所 : 国立療養所長島光明園 (瀬戸内市) ④ 参加者 15 名 ⑤ 内容 : 長島光明園を訪問し、元患者の山本英雄氏 (自治会副会長) から、差別・偏見の歴史、長島架橋の取り組み、等について学ぶ。講和後、フィールドワーク (周辺施設等説明) を行う。(太田学芸員が説明) ⑥ 評価 : 自治会副会長 (山本英雄氏) の差別・偏見、誹謗中傷、国や行政、地域社会からの、隔離された絶望感からの自治会組織の「長島架橋の取り組み」、「らい予防法改正」、「国家賠償請求訴訟」、「優生保護法」等は大変迫力があつた。誰もが、人間として放置できない大きな課題であると感じた。社会には様々な差別事象が存在し比較は出来ないものの、ハンセン病患者の方が人間扱いされなかった実態は最近になってやっとマスコミ等で紹介されるようになってきている。実態差別は解決に向かっているかも知れないが、社会の心理的な差別・偏見はまだ解決できていない。課題だらけである。ESD・SDGs から地域の未来を考える会としても継続的に学び続けなければならないと強く感じた。



左 : 自治会副会長 (山本英雄氏) の講話風景
右 : 参加者

SDGs : 3 すべての
の人に健康と福
祉を、4 質の高い
教育をみんなに、
10 人や国の不平
等をなくそう、
11 住み続けられ
るまちづくりを)

2. ESDの視点
①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
・様々な事業や研修を通して ESD、SDGs については、とくに自分事として再考するきっかけとなった。参加者は、「当事者意識のないところに責任は生まれない」ということを実感することができたのではないかとと思われる。 ・ ESD・SDGs がテレビや新聞等、マスメディアにおいて報道されることが多いが、取り組み自体の報道はあっても、それが何を意味するのか、本質に触れる内容が少ない。本会では、事業の実施の際には、必ず、ESD・SDGs について、短時間であってもリーフレット配布や説明を行った。そうすることで、参加者（自分たち）が本会の事業に参加していることが、様々な観点から持続可能な社会づくりに貢献していることを自分事として考えることができたのではないかとと思われる。 ・心の病については、精神科医や大学教員の講話から基本的で正しい知識理解が重要であることが分かった。アンケートでは「よく分かった、生活習慣の見直しの重要性、マインドフルネスの実践をしたい、不眠・認知症に関する話がためになった、さらにもっと詳しく聞きたい」という意見があり、参加者にとって大変有意義であった
②どのように学び合いを取り入れたか
・座学だけでなく、現地視察（小学校における地域の神社、地域の先人の記念碑、岡山市東部リサイクルセンター、長島光明園訪問）を取り入れることでより分かりやすく ESD・SDGs について学ぶことができた。 ・岡山市立角山小学校児童の地域・歴史学習（学校行事：1～6年、総合的な学習の時間：3・4年生）では、教員との事前打ち合わせ学習の後、現地学習を行った。事前学習では、学区内の神社や施設についてプロジェクターを使用して児童に課題意識をもたせる工夫をした。また、地域の神社の総代の方に説明をしていただいた。教員が補足説明もした。 ・各講演・講話の最後に質問の時間を取り入れ、参加者から様々な意見を出し合い、内容を深めた。
③どのような学びと実践を結びつける工夫を行ったか
・岡山市立角山小学校児童の「総合的な学習の時間」の学びは、座学に加えて、地域の歴史の足跡（神社、小島の森：偉人の碑）を実際に訪れることで、具体的で分かりやすく児童にとってより深い学びとすることができた。また、ハンセン病国立療養所邑久光明園長島光明園についても、実際に訪問することで、持続可能な社会づくりの問題や課題は、自分たちの問題であることを提起した学びとした。そして、元患者の方体験や差別・偏見をなくすための取り組み（人権回復の長島大橋の架橋、らい予防法、優生保護法）は絶望の淵に追いやられている想像を絶する取り組みを目の当たりにすることで、大変感銘を受けた研修になった。 ・精神疾患等の研修については、現職の精神科医の専門的な話を聞くことで、それまでは他人事のように考えていた精神疾患や「認知症」を身近な自分事として考えることができた。精神科医の臨床的な講話は分かりやすく、自分事として捉えるきっかけになった。 ・岡山市立上道中学校区（ユネスコスクールの指定校）のPTA研修においては、親の子育てと精神疾患の関わりや、教職員の ESD・SDGs の学び直しを支援することができた。本会の会員も同じ研修会で

交流しながら共に学ぶことができた。また、本会役員が事前に近隣の学校を訪問するなどして、実態をつかみ様々な行事を計画した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・昨年度からの継続的な内容の事業を、月1～2回程度実施した。新しい役員の加入や、度々参加してくれる方も増えるとともに、地域において本会やESD・SDGsについての理解が得られた。
- ・リサイクルセンター・プラザ見学、共生社会やLGBTQ、町内会の取り組みの研修が新たに加わり、取り組みの広がりが見られた。また、精神疾患について前年度に引き続いての研修を実施し、地域からの参加者も多く、精神疾患に対する理解や偏見について学ぶことができた。
- ・本会役員が自ら「地域の歴史」や「共生社会の現状やその課題」について学修し、講師を務めたことは、高齢者のキャリアアップに繋がる見本であり評価される。
- ・「精神疾患の学び」や「ハンセン病国立療養所長島光明園現地視察」は、社会人としての主体的な学習不足（自分事としてとらえなければならない）や研修不足からの差別・偏見等が存在することが分かった。
- ・感染症や精神疾患に対する偏見や差別が起きるのは、メンタル・リテラシー（知識を理解し、活用する力）の欠如、つまり、病気の知識、予防の知識、認識する知識、治療に対する知識、初期対応の知識の不足から来ることが多い事を学んだ。知識理解だけでは、差別や偏見はなくなる。主体的に研修を何度も受け、この問題を自分事として考える、生きることがさらに重要であることが分かった。
- ・精神疾患、ハンセン病等の学修、さらに共生社会・多様性の学びから、様々な病気や障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、病気や障がいを理由とする差別の解消を推進することの重要性が深まった。
- ・地域のユネスコスクールの指定校（岡山市立上道中学校）の学校運営協議会や学校行事に数回参加し、地域に開かれた学校のとり組み支援や、委員会においてESD・SDGsについて、積極的に支援することができた。
- ・精神疾患に関しては精神科医による前年度に引き続いた講演会を実施した。精神疾患の知識や予防、さらに偏見や差別をなくするという観点から、大変有益な講演会であった。参加者は自分事として考えるきっかけになったようである。地域住民が健康で充実した生活を送る一助となる。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・地域にある身近な教材（木野山神社信仰、ハンセン病）や様々な環境問題等、身近な様々な事象から学ぶことが大切であることが分かった。環境問題だけでなくSDGs17の目標すべてに目標を広げる必要がある。
- ・ESD・SDGsについての学習や取り組みは、学校だけでなく生涯学習の視点から世代を超えた取り組みを行うことが重要である。そのためには、公民館活動を活用したが、高齢者の参加が多く、青少年の参加についてはまだ課題があると自覚した。
- ・角山小学校における歴史学習は、遠足（学校行事）に本会から講師として参加したが、当該小学校

において、批判的思考やアクティブラーニングからの視点不足があると反省した。持続可能な社会構築のため、子どもたちがその資質・能力を培う取り組みに課題がある。

・教育における持続可能な社会づくりのために必要な資質・能力は、批判的思考（クリティカルシンキング）がとくに重要であるのである。学校教育においては、日々の教科の授業において ESD・SDGs の実践ができているということに他ならない。同じように、地域社会においても、ESD・SDGs の視点からの生活や生き方をすれば、日々の生活の中で ESD・SDGs が実践できる。本会の取り組みや地域社会に対する啓発から、微々たるものではあるが、豊かな人間性を育み、地域から持続可能な社会、共生社会づくりが進んでいくことができ、事象を自分事として捉えることができるようになって分かった。児童生徒が ESD・SDGs とはということかについて学ぶためには、教員がさらに研修を深めていく必要がある。

・令和6年度の事業が単発に終わるのではなく、持続可能な取り組みとなるためには、十分な反省（成果と課題を明らかにする）が必要であり、次年度の取り組みにつなげていくことが重要である

・精神科医を招聘しての講演会の実施では、上道地域以外からの参加者も多かった。内容が高齢者の精神疾患・認知症なので、高齢者世代の参加が多く、所期の目的を達成することができた。

・ユネスコスクール指定校であっても、ESD についての課題意識や知識理解については学校間、教員間で差異があることがわかった。ユネスコスクールに指定された後、時間の経過と共に校内ではその理念が薄まっている傾向が強く、本会からの働きかけや、教職員研修の支援の必要性を感じた。

・ESD・SDGs については、環境について学んだり、環境の改善を行ったりすることであると部分的に断定して捉えていることが多い。マスコミ等においてもそういう傾向が強い。ESD は、持続可能な社会づくりの担い手を育てるために必要な資質・能力において特に重要である。なぜこのような課題や問題である事象が起きたのか、クリティカルに評価を行い、深く考えることが話題にならないのは残念である。取り組みが上滑りで単発的にならないように、社会全体に ESD・SDGs について、何度でも問いかける必要がある。

・岡山市立上道公民館の活動に参加したり、利用したりすることで、現在や将来、地域の人々が幸せに暮らすことが出来るように世代を超えた取り組みが今以上に必要であることが分かった。そのことで地域の絆を取り戻すことをねらったが、まだ不十分である。また、世代を超えた取り組みに課題が残る。老人会には説明やパンフレット配布を行うが、他の世代には十分な説明ができなかった。

・難しいことではあるが、参加の際、事前に基本的事項（研修主題やそれと ESD・SDGs との関連）について学修したり、疑問点等をもって参加したりすることは、個々の主体的研修をより充実させる。参加者によっては、主題に対する知識や思考に散らばりがあるので、そのことに対応した分かりやすい学びが必要である。